

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日:2013年8月22日

所属:教育文化学部 国際言語文化課程 日本アジア文化選修4年

氏名:平山 知実

派遣大学名(中国):蘭州大学

在籍身分:交換留学生

派遣期間:約11か月

渡航年月日:2012年8月26日

帰国年月日:2013年7月24日

○派遣先大学における授業の履修状況

コード	授業名	履修期間	講義時間(週)
102010	初級汉语(I)	2012年9月1日~2013年1月11日	7時間半
102020	初級口语(I)	2012年9月1日~2013年1月11日	4時間半
102030	初級听力(I)	2012年9月1日~2013年1月11日	3時間
201010	中級汉语(II)	2013年2月25日~2013年7月15日	6時間
201020	中級口语(II)	2013年2月25日~2013年7月15日	4時間半
201030	中級听力(II)	2013年2月25日~2013年7月15日	4時間半
201040	中級阅读(II)	2013年2月25日~2013年7月15日	3時間

○研究・学習概要及び今後の勉強計画について

蘭州大学正門

蘭州大学の授業は中国語の試験によって学生の能力別にクラスが割り振られ、それぞれ15人程度の少人数で行われます。クラスは初級Ⅰ～Ⅲ、中級Ⅰ、Ⅱ、高級Ⅰ～Ⅲとあり級の中でもまた能力別に分けられますが、自分でクラスを選択する事も可能です。汉语は主に文法や新しい単語を学ぶ授業です。口语は先生や留学生と積極的に話し授業内で発言することが強く求められる授業です。中級口语ではテーマを決めてプレゼンテーションをする事もありました。听力ではリスニングをし、阅读ではあまり長くはない程度の物語や論文などを短時間で読み、速読力と読解力を鍛えました。どの授業も『発言する』という事が求められているし、留学生達も積極的に





後期のクラスメート

授業に取り組むので授業中にはにぎやかです。

今回の留学を経て、中国語を学ぶ意欲がより高まりました。今後は新HSK考試6級や中国語検定等中国語の資格取得を目指して更に学習に励みたいと考えています。また研究については、まず現在の中国社会に目を向け、そこから歴史や文化についても理解と研究を広げていきたいと思っています。

○ 生活面について

交換留学生は大学内の留学生寮に住みます。また、寮によって備わっている設備が違います。私が住んでいた寮は部屋の大小に関わらず2人部屋、部屋にはシャワー・洗面所・トイレが完備されています。各部屋にキッチンはなく、給湯室と公共キッチン(水道と換気扇のみ)がありました。給湯室の湯は24時間出ますが部屋のシャワー・水道の湯は18時～22時までと時間が決められており、時には様々な問題で水が止まる事もあるので日本人にとっては少し慣れないところもあるかもしれません。自分の部屋(浴室等も含め)の掃除は全て自己管理なので、清掃員の方々が部屋に入る事はほぼありませんでした。

食事に関しては、よく大学内の学生食堂を利用しました。大学外の店で食べるよりもとても安いので、学生を含め多くの方が利用しています。イスラム教を信仰する学生も多いので、ムスリムが口に出来るような清真料理専門の食堂も大学内外にあります。時間がある時は友達と街まで出て行く事もありました。また、街中では夜になると屋台が出現し夜遅くまで開店しています。

蘭州での一日の生活の大体の流れは、午前中に学習し午後は放課後でした(クラスごとに異なります)。放課後はほぼ自主学習、運動、街に出る等して過ごしました。



中華料理(火鍋)

留学生寮(专家楼)



学習は学校内の施設を利用したりカフェを利用したりと韓国人や中国人の友人達と勉強に励みました。校内に運動場や球技用コートも備わっているので、よく友人達とバドミントンをしたりサッカー観戦に行ったりもしました。定期的集まるような特別な部活動等はなかったため、自分達で日々積極的に外に出るようになっていました。

○ その他留学全般にわたる感想

国際文化祭



大学のイベントは、京劇鑑賞や 12 月には国際文化祭、4 月には運動会(どちらも参加は自由)等がありました。国際文化祭は各国の生徒が展示・ステージ班に分かれて出し物を行ないました。展示では展示物以外に当人達は伝統服を着る・自国の料理をふるまう等して盛り上げ、ステージは歌やダンスで盛り上がっていました。運動会は留学生も中国人学生も参加し他大学と合同開催され、競い合っていました。

このように蘭州大学には学生が参加するイベントが多々あります。学習の息抜きや友人を含め多くの学生とコミュニケーションをとる事もできるので、イベント中はとても盛り上がっています。

留学中では長期休みの間に中国国内の旅行へ何度か行きました。日本からでは行きにくいような場所や初めて知った都市など様々な風景を眺め、色々な人に出会い、中国の広さを改めて実感しました。

私は留学直前まで、先の事を考えると不安な気持ちばかりでした。語学に関しても新しい生活や人間関係に関しても、海外の地で新しい一歩を踏み出すということがとても不安でした。またこの経験が、今後自分を動かす原動力になれば良いという期待もありました。

現地に着いてみると当時交換留学生で日本人は私一人でした。自分の伝えたい事がうまく伝わらず相手の話している事も理解するのに時間がかかり、大変もどかしく、寂しい日々を送りました。

そういう私に周りの留学生や中国人の学生は根気強く中国語を教えてくれたり、聞き取ろうと頑張ってくれたり、共に日々を過ごし、いつも優しく接してくれました。日本人が周りにいないという環境は意思疎通が困難で悩ましい状況を作りますが、焦りと周囲の言葉をもっと理解したいという気持ちにより学習意欲を湧きたたせました。

もちろん、出会う人全てと良い関係を築けたわけではありません。反日感情を持つ人々にも出会い、気持ちをぶつけられた事もあります。しかしそれ以上に、温かく親切に迎え入れてくれる人々が沢山いました。そういう人々に出会えた時、安心感と嬉しさがこみ上げてきた事を今でも覚えています。

今回の留学では様々な方にお世話になりました。留学中に出会えた友人達や、蘭州大学の先生方、秋田大学の事務員の皆様や内田先生、支えてくれた両親や日本の友人達にも、心から感謝したいです。



蘭州市内の観光